



7月25日から28日まで、伊豆大島(東京都大島町)で、「第1回全国離島交流中学生野球大会」が開催されました。

この大会は、元プロ野球選手の村田兆治さんの提唱で、離島の野球少年の交流と地域活性化を目的に今年初めて開かれたもので、全国の離島から10チームが参加して、甲子園さながらの熱戦が繰り広げられました。

鳥羽市からは、答志中学校野球部のみなさんが出場し、見事3位入賞を果たしました。

離島甲子園で全力プレー



8月2日、NPOとばりサイクルネットワークが市民文化会館で「親子エコ・クッキング教室」を開きました。

参加者のみなさんは、講師から「残さぬものは買わない」「食べるだけ料理する」などごみを出さない工夫や、調理の手順を考えてエネルギーを節約する工夫などについて話を聞いた後、普段余りやすい食材で簡単にできる「豆腐アイス」と「おやき」作りに挑戦しました。

友だち同士で参加した右江七海さんと北川穂乃佳さん(いずれも加茂小6年)は、「環境のことを考えるいい機会になりました」と話してくれました。

出来上がったたら全部食べようね

まちの話題 18号



昨年の大黒橋に続いて、鳥羽三丁目の妙慶川に架かる相橋の架け替え工事が完成し、7月26日、渡り初め式が行われました。

相橋の架け替えは、まちづくりについて市民と行政が協働で協議する「とばみなとまちづくり市民協議会」が中心となってデザインや内容などを考え、昨年10月から工事が行われていました。

式では、テープカットや菓子まきなどが行われ、新しい橋の完成を祝いました。

妙慶川に二つめのシンボル完成



8月5日、小浜町の済渡院で、境内の岩壁に「南無阿弥陀佛」と彫られた大文字の開眼式が執り行われました。

この大文字は、元船大工で同院の世話人を務める勝又楠一さんが、高さ約20メートルの大岩に3年前からほぼ毎日向き合い、一人で彫り続けたものです。

大文字製作は、前住職の故佐藤哲徳さんと勝又さんの長年の夢で、勝又さんは、「先代住職との約束を果たせてうれしいです。自分のペースで作業したので、苦勞はありませんでした」と思いを語ってくれました。

先代の思いを継いで、ようやく完成